

県内におけるナガエツルノゲイトウ分布図の公開について

令和7年2月21日

千葉県環境生活部自然保護課

生物多様性センター

特定外来生物ナガエツルノゲイトウは、増殖力や再生力が強い水生植物で、繁殖すると農業や生態系に影響を与えることから早急な対策が求められています。

この度、県内全域で実施した分布調査結果を取りまとめた分布図を作成したので公開します。

県では、これらの分布図を活用し、市町村や関係団体と連携し、計画的・効果的な防除を行ってまいります。

1 ナガエツルノゲイトウ（特定外来生物）について

南アメリカ大陸原産の水生植物。湖や沼や河川だけでなく陸上でも生育し、繁殖力が強く、除去してもちぎれた茎などから再生、拡散し、水質の悪化や生態系への影響、用排水施設における取水・排水障害など、様々な被害の要因となっています。

県内では、平成2年（1990年）に印旛沼で初確認された後、広い範囲で繁茂が確認されています。

2 分布調査について

(1) 実施時期 令和5～6年度

(2) 調査手法

- ① 県が保有する分布情報、関係者（国、県、市町村等）へのアンケート、衛星画像等により、ナガエツルノゲイトウの分布の可能性がある地点を推定。
- ② 令和6年8～10月に、上記の全地点において現地調査を行い、分布の有無、及び分布密度を目視により確認。

3 今回作成した分布図（3種類）について

これまでに分布が確認された全地点（累積）、令和6年度に確認された分布状況、令和6年度の状況を踏まえた侵入可能性のある地点、の3種類について、いずれも500メートルメッシュの分布図を作成した。

(1) 累積分布図（別紙 図1）

これまでに本種の分布が確認された全地点を表示。

- ・ 分布が確認された地点は、北部（手賀沼・印旛沼とその周辺、香取地区北部の利根川下流域、栗山川とその周辺）に集中。
- ・ 県南部では、君津地区（小糸川とその周辺）で確認。
- ・ 夷隅地区、安房地区では未確認。

(2) 令和6年度詳細分布図（別紙 図2）

現地調査時点の結果を、繁茂状況*により3段階に色分けして表示。

- ・ 蔓延地域（大規模な群落*がある地域）は主に県北部と君津地域に集中。
- ・ 拡大地域（中規模の群落*がある地域）は長生地域（一宮川下流）で確認。
- ・ 侵入初期地域（小規模な群落*がある地域）は長生地域と山武地域の平野部水路、千葉地区と君津地区の河川の中上流に散在。

* 1メッシュ（500メートル四方）あたりの群落サイズが、蔓延地域は2,500㎡以上、拡大地域は100㎡以上2,500㎡未満、小規模は100㎡未満。

(3) 侵入可能性評価図（別紙 図3）

現地調査の結果（上記（2））に基づき、今後の分布拡大の危険性が高い地域*を追加で表示。

- * 分布地点の、隣接地域・河川等の下流の地域・接続水路のある地域の3地域
- ・ 山武地域及び長生地域の平野部の水路
- ・ 千葉地域及び君津地域の東京湾に流入する河川（上中流で確認されているため）

4 分布図の活用

これらの分布図は市町村や関係機関とも共有し、計画的・効果的な防除に取り組むほか、啓発資料としても活用する予定です。

* 蔓延地域及び拡大地域では被害状況等に応じ優先順位をつけた防除が、侵入初期地域では小規模群落を早期発見して駆除・根絶する方法が効果的です。

5 閲覧等

千葉県生物多様性センターのホームページで分布図をダウンロードできます。

千葉県生物多様性センター <https://www.bdcchiba.jp/>

図1 累積分布図

令和5年度までに専門機関等により本種の分布が確認された全地点と、令和6年8～10月に実施した現地調査の結果を併せて表示した。

- ※ 調査後の駆除や流出等により、現在は分布していない地点も含む
- ※ 500mメッシュで表示

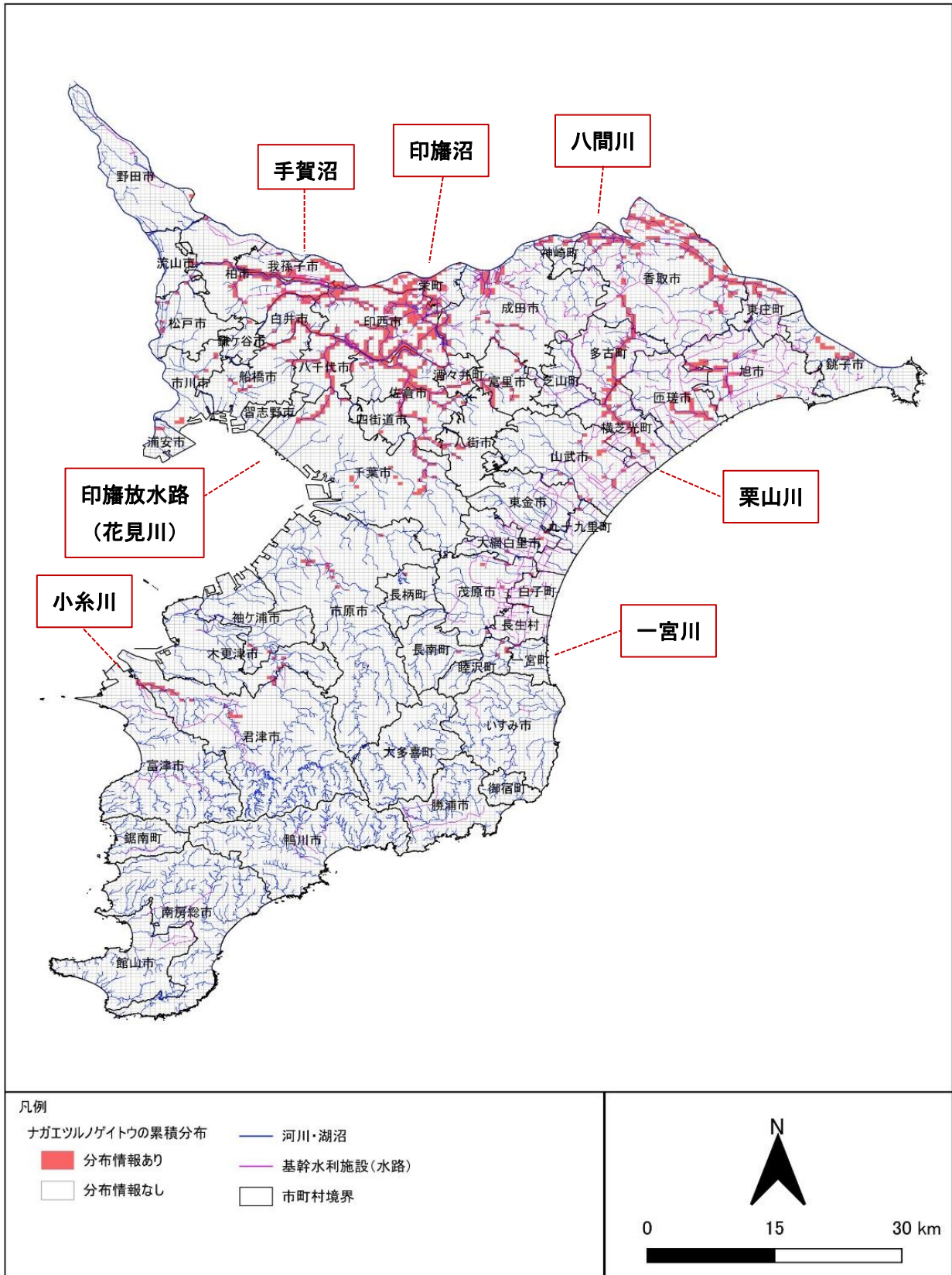


図2 令和6年度詳細分布図

令和6年8～10月に実施した現地調査の結果を、1メッシュあたりの繁茂状況（群落の生育面積）により3段階に色分けして表示した。

- ※ 調査後の駆除や流出等により、現在は分布していない地点も含む
- ※ 500mメッシュで表示

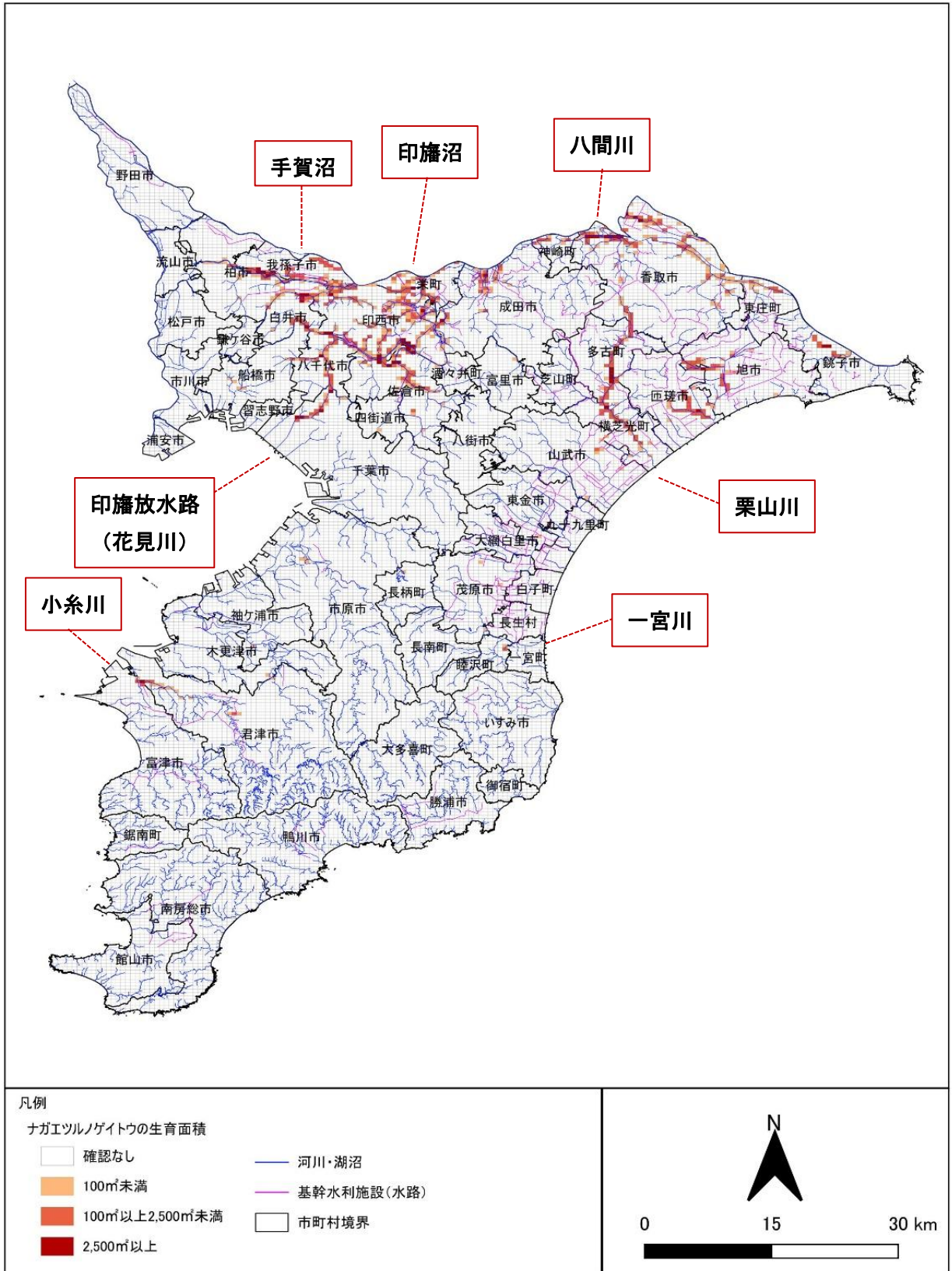


図3 侵入可能性評価図

現地調査で本種の繁茂が確認された全地点（図2の着色部分を赤色で表示）を起点に、分布拡大の可能性のある地点（水色）を表示した。

* 拡大の可能性のある地点は、①近傍、②同一河川（水系）の下流域、③接続水路の周辺地域を想定。

※ 調査後の駆除や流出等により、現在は分布していない地点も含む

※ 今後の侵入の危険性を示しており、必ず侵入するものではない

※ 500m メッシュで表示

